

# 世界史に出てくる石炭 世界史の先生から寄稿

## つながる教科

### 1. 産業革命

産業革命に石炭は欠かせません。理型の皆さんは2年時に既習済みですし、文型の皆さんは今から扱う単元です。いずれにしても、現在「舟入高校生専用サイト」に載せていますので、参考に見てください。ここでも少し触れておきましょう。

まず、産業革命はいつ始まりますか。1760年代と覚えましょう。これは受験生には必須の年代です。綿織物の機械が発明され、その動力として蒸気が使われるようになるのが始まりです。蒸気機関を実用化した英人は誰ですか？そう、ワットです。そして、その蒸気機関を動かす石炭が英には豊富にありました。石炭が人間の生活に大きく影響を与えることになったのです。

### 2. 交通革命

この蒸気機関は綿織物の機械を動かす動力としてだけでなく、交通機関の発達に影響を与えることは皆さんもご存じだと思います。まずは蒸気船、これは米人フルトンが1804年に発明します。実をいうと、英は運河網が発達しています。現在でも「Narrow Boat」として細長い舟が親しまれており、観光の目玉として人気がある地域も存在します。しかし、蒸気機関といえは、なんといっても機関車ですよね。英では世界に先駆けて鉄道網が発達しました。英人スティーヴンソンが発明した機関車が1830年、リヴァプールとマンチェスター間を走り、実用化されると、鉄道は運河にとって代わるようになったのです。このように石炭は、人間の生活を経済的にも社会的にも大きく変えることとなりました。

### 3. 日本

日本では 1868年の明治維新後、急速に西洋化の波が訪れ、石炭の需要は急速に高まりました。例えば、日本で初めて建設された大規模な八幡製鉄所は、中国から輸入する鉄鉱石と、豊富な筑豊の石炭を利用できる場所として建設されました。。

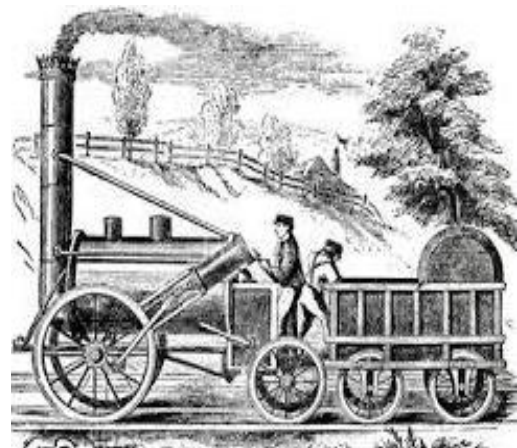
### 4. 衰退

しかし、石炭はやがて石油にとってかわられ、衰退の一途をたどります。この交替がいつ頃なのか、その理由は何なのか、地歴科目だけでなく化学や地学などでもアプローチできますよ。



現在の Narrow Boat

観光用のみならず、ボートで生活している人もいますのだそうです。



ステーヴンソンの蒸気機関車

初めての蒸気機関車がどのくらいのスピードが出たか、世界史の図表等にも出ていますよ。